

歌枕名寄

第廿三

和書門			
一八二七	四	號	類
一七三	函		
三七	架		
冊			

和書類			
八二七	四	號	類
三	冊		
函			
架			

內閣文庫			
番號	和	18274	
冊數	39 (24)		
函號	202	123	

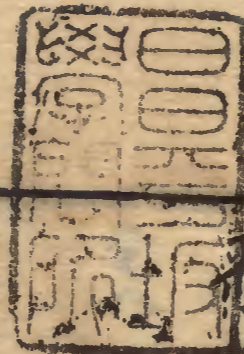


Handwritten text on the left page, including a faint rectangular stamp at the top center and a red seal at the bottom right. The text is arranged in vertical columns and is mostly illegible due to fading.

Handwritten text on the right page, which is mostly illegible due to fading. The text is arranged in vertical columns.

歌枕名寄卷第廿三

東山部二



高島篇

三尾

真長浦

勝野

香取浦

足利海

阿波河

万本杜

田上篇

三尾

神山

板目山

半山

多師山

小竹生嶽

五十師峯

鷹島岑

八島

石良瀬

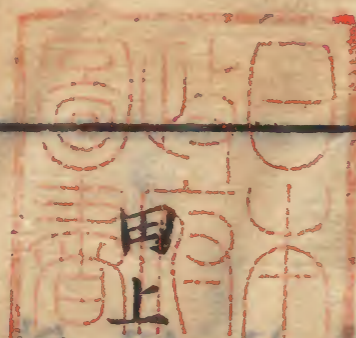
小山里

黒津里

解宮

近江國中

淺草文庫



雜篇

比良

滋賀樂

鳥籠山

不知也河

手向山

守山

三神山

檜山

鏡山

蒲生野

玉小山

朝妻山

伊吹山

塩津山

海津里

朝日山

伊香山

百圃山

高見山

兎田上山

孫高山

連庫山

白月山

香取山

高嶋篇

高嶋篇 山河浦

金八 山にてぬ名いたる南の山

い川をさすまのうのれ里 漢人か

万代 杉さつ破たりまのうのれ里

三山 杉さつ破たりまのうのれ里 権中納言

山 容在者三更刺而照月高島山隠惜毛

河 容在者三更刺而照月高島山隠惜毛

長百 山 容在者三更刺而照月高島山隠惜毛

現六 山 容在者三更刺而照月高島山隠惜毛 後九条前 内大臣

山 容在者三更刺而照月高島山隠惜毛

こおのうままたむ風うま

浦

新六 浦のうまは風舟のうまの

よゆうくせとせのうまのうまのうま

新六 浦ま乃みから波下りて

白葉 浦ま乃みから波下りて

並 三尾 中山 杣山 崎 御崎 海浦

新六 たり浦や三尾のねまれ山うま

くげしきせとせのうまのうま

新六 山 山 山 山 山 山 山 山

新古六 山 山 山 山 山 山 山 山

これの山向所しまさうがうま 前大尺

新六 みおのやう浦のまれまれうま

ままのうまのうまのうま

中山

新十 一浦や三尾の中うま

はくうりまのうまのうま

杣山

新六 たりまのうまのうま

こやうのうまのうまのうま

中うまのうまのうまのうま

これのうまのうまのうま

崎

万九

真長浦

おぼふつとまきとまきとて三つをいれ  
海多しうと又うらうら

御崎

坪後右

小松

所はや小松よりうけて見わたせえ  
こたのみきりよりしりてかく

仲実物長

海

三尾の海よりわたりたれて海より

うらわらつとく都より

實方物長

右家集云此江も海三尾崎と云取

そて細いこととてよめるとなり

浦

風さみとみおのうら海をこく船より

山乃木の葉れさゆいふかな 定家

あうまれとみおのうら浪をうけて

うらまじやゆら乃たうらうら

真長浦

万九

並三

思作雖来と不勝而氷尾崎真長乃  
浦乎又顧津

勝野

万七

大御舟竟而佐守布高島く三尾  
勝野之奈伎左思所念

原

万三 新初ハ

何處吾將宿高島乃膝野原雨此

日暮去者

新初ハ

くれハ又わもさうらふさふ人乃

萩

うらたけさうの森乃さうさ

常盤升合  
英政大長

筑後老

高橋乃からたけ原さうらふ

もさふゆゆさうらの白雪 家隆

新六  
馬

まのりる人さうらふさうあれ

うらたけの森乃さうらふさ 知家

降つらつらの原乃雷れさう

まらる新守れ神のさうけさ  
後二位  
隆持

小野

筑古五

鶉

吹風とさうさうしじうつさく

一条花園白

並四

香取浦

うらたけ小野乃秋の夕くれ

左大臣

万七

いさくよりぬのうらさうらう海の

かきうのうらにさうさうらう

建保而

夏衣うられうらうのうらう

波のうらうらうらう

定家

並五

足利海

足利海有異點暫任先達哥杭書

万九

高島之足利湖乎傍過而塩津菅浦

今者將標

小辨

並六 阿渡河 湊

万九

あづまのあとのほろいささけも  
我々衆共よたのひうり  
ひきれたあつあとの河名は後并せも  
のうまに およかきさうていなり  
ね忠

湊

万九

あづまのあとのほろいささけも  
是速の水門よりうまきんり

並七 万木社

六作

たけのぼりゆりまののりあはれ  
ひまりのぼりあつあつものぞ

并十八

名よりあつあつゆりまののりあはれ  
いくそつさね乃甲もやまわら  
右物名かぎねのいんち  
倉道流

良玉

君ゆきいゆりまの杜乃枝もと  
ゆりまのゆり乃わらうまうま  
ね忠

田上篇 山 杣山 河

万十三

五味

梅つたまたまみ山乃さねうら  
あつあついささけあつあつ  
うらたまたま田上山れかしのまら

新六

うらの河せまがうらたまたま  
衣もれたれうま山乃あつあつ  
衣笠内倉

寛治百



塔百

詞十

河

拾七

塔百

うらみかきわてうまじきまたにたろ 為氏

わしろまよにけりまけりく田上の

そのうほ山よ木葉あらうし 肝煎

あつ火くく心乃をみる世の中と

あどくれおろかきそなりたり 後れ

右一首詞云都々任わらてあをく

田上といふあはちうてよあつとらり

月歌乃たあみ川よまきけり

あし海よいとのしちとみしなり 元補

田上せまのあはろはむとつひ

こわとらるまへとすくま海のか 國信

同 紅系

風あけ田上川乃あしるまに

こひのゆかりをへつるんより 仲実

心とのりこのよはたらふ田上や

わらひまうてるあしるまれあき 肝煎

ゆつるこ田上河乃あしるまれ

井くらひらとともくさすは亦 肝煎

いとくくあつこの海を風きぬ

田上川やあしるまれゆらん 衣高奈

せいのろ田上川乃のちりやれ

さつまく水のせりえちるま 知家

同

同

同

同

同

新古今

猿ねりあわしの丸やれむし

川まきふらうらむし船りくかり大納言 純信

右に田舎海へ由家集よみたり

並一  
二尾山

續古六

衣手れしれり川やこりるん

三島の山せしあしまさりたり山階入名 右に在

右の方高崎し並三尾亦載く兩所各

別れ然者此方な肥高崎く三尾丸

任先を空祝哲哉あふ下

並二  
神山

くもりしき夕はくよとこつる山

七 右神山乃志るしかろん後形物

右田よりそ船にくあふまの山乃

つりりそとありより家集よみ

まのれ霧をばしけてみ山乃

あきき谷のきされり同

右田よりわあかたり人よつらむとら

並三  
板目山

いり山いりやももさく海ま

さくれきりてまきりゆく日

並四  
牛山

まき霧やうたをのきんぬまの

しんらふのちかきうらふは 後打物下

時ぬきうらふの山いりみちをれ

並五

久はくながし乃みよをなれ日

多師山

久師山はくしんりやうりて

並六

かげきおの山をほらん日

並六

右各お田上誣へ申見干家集

小竹生嶽

閑居贈答  
百首

やれりとの所ぬのけしきりあり  
とやきゆみ乃りみちいぬん

山

右神山乃志るしかりん 後打物下

右田ぶそく船にくありあまの山

たかりしてありの家集よこぬ

まりれ霧中ばけしてみ山乃

あしき谷の志るれりて 同

右田うらわおながりん今つらきとく

並三  
板目山

いり山いりやももくゆきし

まくれしひてまきうらゆ日

並四  
半山

まきおやうえんをいしんぬきあ

並五

又師山

しづるまのゆるるるしづるま  
後抄下  
時ぬきりたるの山のみらされ

又けくたのふみよをたれ日

並六

小竹生嶽

右各お田上誦く由見ん千家集

かけきおの山と深らん日

閑居贈答  
百首

山

そしらのゆめのつけはるるあり

とやゆみ乃のみりゆらん  
基

並七

五十師峯

あやの吹きぬ乃山此水の行

そよもそよすつりらるる

衣蓋内大臣

そつそれつりのきぬ時ぬらん

そつひこまゆこおあしよるる  
後抄朝臣

白妙乃花の本まをさうるる

のあつれこのとせつらつら日

右田よほくらるる

並八  
八鴻

あきつれまのつとみそつら日

なみよけおらむらの日

五九

石良瀬

右田より舟に乗るのりて八幡とていふ所  
にゆく舟乃て舟をうりたれいふありけん

心とていふ紙をみるごとくやうせん

りらるせりもあつらうけし 後北朝

右田より舟に乗るのりて八幡とていふ所  
まゝていふありとあし

五八

小山田

散木

お祭りやと山のさしれあつた

あつたのさしあをうりてな 後重

右田より舟のりて八幡とていふ所の許

五七

黒津里

いづりて舟のりて八幡とていふ所の許

いづりて舟のりて八幡とていふ所の許

いづりて舟のりて八幡とていふ所の許

いづりて舟のりて八幡とていふ所の許

いづりて舟のりて八幡とていふ所の許

右二首田より舟のりて八幡とていふ所の許

五六

餅宮

わさよふゆらひのちとすうた

はくくとあはれとていふ所の許

あはれとていふ所の許

よりみりあひのまつゝて 後注初  
右田上には神の社れありけり  
ゆりひのまといふとまきてより  
吾れりしとて怨と於田上悔と由見  
散本集故並き

雜篇

比良

山 高嶺 湊 浦 都

誓 古持

吹りてむむれ物いふむむ  
ひらさ乃みりせそやまんや

中納言 回信

山

付高山 遠山

ひら山をりか守紅糸たどりて

万八

月立

こよみかきしあはらりとも

ひら山乃小妻りうむしりて

わらきよふもよあそやれり

右二首今葉云万葉集一平山と書下

比良山奈良山と様和今更首何外

或先建初枕比良郡載之り守此首

但奈良篇亦あり

比良山乃小妻りうむしりて

わらきよふもよあそやれり

比良山乃小妻りうむしりて

後注初

千二

様

月九 影吉十八

新古二

花はふらふらの山風さきまたり

十二

こころゆくふれあはれあはれあはれ

宮内

新古七

吹拂りてはゆる山風やさむらえん

新古六

あはれゆく人さるるもくひかたり

後名院  
下野

月水

雲をさふむつ山をせよ月内えて

大納言  
経信

新古五

こころゆくあはれはたけゆく波

院大納言  
典侍

万代

秋乃あはれゆるの山をゆきぬぞ

道世江親王

新古六

月下ゆくさむらふ志望乃ゆく浪

るこころゆくさむらふ志望乃ゆく浪

高嶺

さ波やはらたぬの山あがり

信実初信

千五

ゆみちとくこの物とかなう

形六絶五

同六

あはれゆくゆるれさ縁のねまき

道因法師

新古六

あはれゆくゆるれさ縁のねまき

はは寺入  
お開白

新古六

あはれゆくゆるれさ縁のねまき

詠谷大原

あはれゆくゆるれさ縁のねまき

西の法師

新古一

あはれゆくゆるれさ縁のねまき

あはれゆくゆるれさ縁のねまき

若菜

王れつ出く野ハカヤシヨク平蕨

万三二 湊

吾船者牧乃湖雨榜将泊奥部莫避  
ワカフ子ハヒラノミナトニコキハテンオキヘ  
サヨフケニケリ  
左夜深去来

万六

所方名也ららのみきこれ山風

舟れりし方志祭乃大子

夜笠内大臣

同

夢さる月日さよくこそそん

心乃れこれとひさしあけぬも

知家

万十一 浦

あまあし浦しと玉もりあ

都

やあすのしられをそ乃あし

おさるまをれく林風うあ

光後朝臣

長山 裏去云万葉才一明日香河原宮内

天守代額田王

林乃野れれむさあゆむ

うらりのるこのあしあ

右捨山と信良を文類聚新林田一書成

申年幸此良宮大徳方多託云三月三日

庚辰天守幸近江平浦

滋賀樂

山外山 仙山 峯 里



山禁

續後一 去らそやわつらんあつた乃

山よりあふまうつれより

現六 月麻 長月乃おれぬの月さるゆき

鹿よりたふれあつたの山

郭々 志村め乃あつた山のあつた

むくのえれのやまより也 信實綱臣

外山 外山

まはよりあつたあつたあつた

外山のうらみあつたあつた

續五 外山

六八 常 外山のあつたあつたあつた

同七 外山 外山のあつたあつたあつた

万代 外山 外山のあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

新六 外山 外山のあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

續百一 外山 外山のあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

續拾一 外山 外山のあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

新反三

あつたきれみぶ乃末のわきまきん  
またり甲書ちりきさるひのひかかん  
名譽隠士

松山 付 杉 松山

新反十六

揚 三

あつたき乃乃海山嶺あつたきん  
いせあつたきよもねるはるらん  
在東表  
あつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
隠居法師

金四

六十八

世

嶺

あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
隠居法師

六十八

新反十三

里

新反十六

あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
平徳正

續古五

あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
西行法師

鳥籠山

万四

あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
あつたきの松山あつたきあつたき  
中務親王

古藏号

いぬのみのこと乃山麓なるあまの川

金三

鹿

あまの川麓なるあまの川

山麓なるあまの川

三宮左進

あまの川麓なるあまの川

あまの川麓なるあまの川

あまの川麓なるあまの川

あまの川麓なるあまの川

日十

あまの川麓なるあまの川

徳後十三

あまの川麓なるあまの川

徳拾十五

あまの川麓なるあまの川

山河

あまの川麓なるあまの川

あまの川麓なるあまの川

あまの川麓なるあまの川

徳

不知也

徳十三

あまの川麓なるあまの川

今上内号

卷十二

裏書之後拾遺序云市方山

卷十二

川山也此山名同岸松又別

卷十二

山名長能所云山名

卷十二

山名也我身方山

卷十二

山名也

山向山

又在和國

卷十二

裏書云万葉集云

卷十二

女中祥賀社

卷十二

江海而眺頭還來作

卷十二

山名有手向山

國入之但在今集山野

幸奈良時也然者又和國

或記云大納言兼武

墓所号武流塚春日社

是也古今集素性法師

也他母可切仁也然者

也今集云所見不一途

和也依之字存没名別

授何事就根本字構

後大和山向山多有之

万六

名取百首題山向山而海牙之字を  
相交可思く号大和哉く  
海牙く見た山をの山をまよそて  
いひ道の野をよひわりせんころ  
右坂上郎世化牙の初也上  
かみ物にほおひよひそりて打たれ  
幸少名も向の山海をゆるん 膽西と入  
自余牙の夫和哉の同略也

守山

万十一

人の世なりとあこころをりし  
あきれくはひりきくあひりし

古五

時を

白露もまわれしはくは山を

まよふ葉のそひなつてまよふ

後七

おま

あし月乃山のやまりりちりちり

りりちりせきちりちりちりちり

猿ゆるは神よりわれり山乃

まよふまのこいおれせきちりちり

まよわれとあひりまよふいり山の

たけけきまよつちりちりちり

秋乃まよ月のいりれり山乃

まよのこいせしちりちりちり

まよふまよちりちりちり

詞三

月

全八

拾六

滴

十六

十六

まにまに酒りの山乃あうこれ 宮内

十七

右一節嘉應元年高倉院御時大嘗 永能

十八

今悠紀方神社の奇を江回守山

十九

了了きとてたえうきにりり山乃 式部

二十

おま一人かろく山ろくをり 資業

二十一

石永承元年大嘗今悠紀方屏風

二十二

近江回守山

二十三

あしれりり山けの志このみり

二十四

わりのみん杖のうりん 家隆

二十五

志了業もて露も時毎とるやう 大長

二十六

りりりり山をうつういりり

同六

本松

世了りりりりりりりりりり

下業のうりりりりりりりりりり 稚純

同七

いらん神りりりりりりりりりり

同八

志了業もて露も時毎とるやう 光の業

同九

時了業もて露も時毎とるやう 入道

同十

志了業の志も杖も心りり 伊平

同十一

りりりりりりりりりりりりりりりり 定家

同十二

我神の志せりりりりりりりりりり 秋神

同十三

いらん神りりりりりりりりりり 秋神

同十四

志了業もて露も時毎とるやう 秋神

同十五

りりりりりりりりりりりりりりりり

同十六

志了業もて露も時毎とるやう 秋神

同十七

りりりりりりりりりりりりりりりり

同十八

志了業もて露も時毎とるやう 秋神

祝六 米風三所三子の事れまれよと時ぬ  
榎時ぬ

祝十一 山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝十五 右りみらぬぬとらぬぬとらぬぬの山乃乃ぬぬ

祝十八 三神山 或三上 嶽

拾十 早振みらぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十 上の山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十一 上の山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十二 祈る山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十三 ちよせ乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十四 上の山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十五 やまの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十六 右一首元暦元年大嘗会風俗事

祝二十七 みらぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十八 たぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝二十九 あきみらぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

祝三十 上の山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬの山乃乃ぬぬ

千十 枚村

寛治元年 大嘗会

後拾六

祝拾六

狭恒七

みくもふ名代のときさそりあきん  
みくもの山をこれうその山 大森  
内長

狭恒八

あしたうみをいふ山はむせり

狭恒九

あつてもうさうぬまはやりよ  
あつてもうさうぬまはやりよ 浄助  
親王

新勅十

至橋

みくもの山うさうぬまはやりよ  
みくもの山うさうぬまはやりよ 長  
足

右一は寛元四年無名氏作三神山

### 嶽

新勅十九

あつてもうさうぬまはやりよ

あつてもうさうぬまはやりよ 長  
足

右伊勢の物候を甲賀に譯す家

四十一

### 櫛山

丹波國を同名水信大嘗今并正家  
丹波國を同名水信大嘗今并正家  
丹波國を同名水信大嘗今并正家  
丹波國を同名水信大嘗今并正家

寛治元年大嘗今并正家

みくもの山うさうぬまはやりよ

あつてもうさうぬまはやりよ 匡房

あつてもうさうぬまはやりよ

あつてもうさうぬまはやりよ 家

### 鏡山

古十七

峯野

あつてもうさうぬまはやりよ

あつてもうさうぬまはやりよ 大伴



古女

さす

皮一 山

時如 紅葉

月

月十三

裕一 花

月十

花

あふきの名くみりゆをたてしめ

かおやううふのさくららせぬ 大休了

く見山やまうさくらりてくゆきと

りみらあつくそむいみしけり 素性法師

うらむていふていふていふていふていふ

あふてお葉のゆらんまきむ 貫之

鏡心あけくつれとむすりりり

けさやうらんあふてぬる 坂上石

花乃多はうつそりよあみ山

さるさるのちれけや 坂上是則

みまきさる心もさるく かみんやま

月

後拾九

春雨

令一

千二

塔台

喚子鳥

くみりゆをたてしめ 結宣

さるさるのちれけや 中務

かみんやま 中務

けさやうらんあふてぬる 惠受法師

花乃多はうつそりよあみ山 惠受法師

さるさるのちれけや 大武吉実

みまきさる心もさるく 大武吉実

あふてお葉のゆらんまきむ 各房深

りみらあつくそむいみしけり 秋屋

うらむていふていふていふていふ

かみんやま 柱中油之 呼子

新五七  
月

くもりあきく尺の山は月をみく  
あきけけたせとやふあなる  
まゆみ花

新七  
月

天地をてはくみのかよふあれた  
ひさしあきくをうみくたり  
月

月十九

あきけのあきく風はきりあれて  
あきけのあきく月をみく  
あき

新七  
月

神とみよくあきくあきく世のあきく  
あきけのあきく月をみく  
あき

月十九

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

月十九

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

新六  
月  
雪松

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

新六  
月

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

新七  
月

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

新七  
月

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

月十九

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

新六  
月  
障子

あきけのあきく月をみく  
あきけのあきく月をみく  
あき

山形

郡

日

月

峯

令三

あみふたのうらやうのつねをねた

大正

野

あみややあやうらねあめ

大正

月

あみふたのうらやうのつねをねた

新蒲生野

あみふたのうらやうのつねをねた

大正

あみふたのうらやうのつねをねた

大正

玉小山

あみふたのうらやうのつねをねた

大正

拾五

あみふたのうらやうのつねをねた

大正

朝妻山

あみふたのうらやうのつねをねた

万十

あみふたのうらやうのつねをねた

且妻山丹、廣霏霞

大正

万十

百十

詩客

子等名丹ニ  
ソケノ用ヨロキ  
アケツマ宜パタ  
マニキシ朝妻之片カ  
タマニ  
キシ山カ  
タマニ  
キシ本之カ  
タマニ  
キシ

雨雨ニ  
ニ  
カスミ  
タナヒク多カ  
タマニ  
キシ奈引カ  
タマニ  
キシ

人磨

渡

花々あゝあゝ志のうしんカ  
タマニ  
キシ浪

菅原

住心カ  
タマニ  
キシ心カ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシ船カ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシあカ  
タマニ  
キシはカ  
タマニ  
キシつカ  
タマニ  
キシまカ  
タマニ  
キシわカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシをカ  
タマニ  
キシやカ  
タマニ  
キシせカ  
タマニ  
キシむカ  
タマニ  
キシじカ  
タマニ  
キシ

りあカ  
タマニ  
キシきのカ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシうカ  
タマニ  
キシけカ  
タマニ  
キシはカ  
タマニ  
キシ宿カ  
タマニ  
キシをカ  
タマニ  
キシくカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシ

西の江師

伊吹

と山カ  
タマニ  
キシ外山カ  
タマニ  
キシ嶺カ  
タマニ  
キシ嶽カ  
タマニ  
キシ社カ  
タマニ  
キシ里カ  
タマニ  
キシ

八雲カ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシ抄カ  
タマニ  
キシ通カ  
タマニ  
キシ美カ  
タマニ  
キシ乃カ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシ近カ  
タマニ  
キシ江カ  
タマニ  
キシはカ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシ或カ  
タマニ  
キシ云カ  
タマニ  
キシ詠カ  
タマニ  
キシ左カ  
タマニ  
キシ志カ  
タマニ  
キシ母カ  
タマニ  
キシ草カ  
タマニ  
キシ

後拾カ  
タマニ  
キシ蘇カ  
タマニ  
キシ生カ  
タマニ  
キシ物カ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシふカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシやカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシあカ  
タマニ  
キシさカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシしカ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシるカ  
タマニ  
キシよカ  
タマニ  
キシ

新正

あカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシしカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシしカ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシゆカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシあカ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシ 実方約作

建保

まカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシ又カ  
タマニ  
キシうカ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシわカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシぬカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシしカ  
タマニ  
キシとカ  
タマニ  
キシるカ  
タマニ  
キシ 和泉式部

うカ  
タマニ  
キシはカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシやカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシあカ  
タマニ  
キシさカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシむカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシくカ  
タマニ  
キシ

あカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシうカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシゆカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシ色カ  
タマニ  
キシはカ  
タマニ  
キシみカ  
タマニ  
キシえカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシ

いカ  
タマニ  
キシくカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシわカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシぬカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシまカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシ

あカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシうカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシやカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシぬカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシまカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシ

山

あカ  
タマニ  
キシらカ  
タマニ  
キシうカ  
タマニ  
キシもカ  
タマニ  
キシやカ  
タマニ  
キシいカ  
タマニ  
キシぬカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシのカ  
タマニ  
キシまカ  
タマニ  
キシりカ  
タマニ  
キシきカ  
タマニ  
キシれカ  
タマニ  
キシ

六枚

六

をのりあひのよもばこりマ

新勅十二

山はしきりゆりまきの山乃たれ

いふもはふあひりりウタリ 右平親成

明玉 春ぬ

あひあはらとらあまの心れまぬ

させしうつももえあしきり 右移政一季  
右大臣

信信七

うしきよめえつごうつあさ山

あひ若あまれりりよしきり 床縁法師

城百

輝たつとあまの山乃あまり

たのしきすくくあひちり 仲家郎

建保五書

あひまうあまの山乃せき

あひれをりかす 麻代 行能

廉

月

松虫

むしづりあまの山乃松の露

たつおろりもろねり 順徳院

まろきぬまはあまの山乃

まろしきりあまの山乃

あまをけあまの山乃

あまの山乃 秀能

あまの山乃 伊吹山

あまの山乃 太宰権所  
為経

外山

あまの山乃 冬梅

あまの山乃 雪梅好忠

信石六

嶺

新右十二

あまの山はたけのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

中宮大夫  
家房

後右十四

伊吹山はたけのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

中務卿  
家房

獄

沢六外水

余右内海

あまの山はたけのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

角雨

伊吹山はたけのきりぎりすのきりぎりす

右内大臣  
家房

杜

人よ世はたけのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

信長卿  
家房

長一

里

あまの山はたけのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

信長卿  
家房

右一首家集初巻のきりぎりすのきりぎりす

あまの山はたけのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

塩津

付菅浦山

百九

高橋乃あまのうらまへ

あまのうらまへ

月立

わらう波の塩原とうらまへ

あまのうらまへ

山

月三

あまのうらまへ

あまのうらまへ

後百六

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

海津里

堀江百

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

朝目山

あまのうらまへ

あまのうらまへ

実方船下

右朝日山麓より神奈川に  
屏風絵

後拾日 ありけき代乃そめれ朝日山

夫より神のいけりきりきり 大森  
乃長

右仁治二年大嘗會總紀方凡俗言

朝日山

早苗 早苗より神のいけりきりきりきりきり

あさ日の山乃ぬりてなれとも 道信  
朝日

野

千亩 霧あさりあさりの野へいそり

志のわたるもかくいおとすと 信  
朝日

里

合五 くらりれきをのあかりいあまなり

朝日の里をいけりきりきり 藤原  
朝日

新古七 霧草 あらねきを朝日の里にいけり

さよれあかりのかきなり 系  
朝日

天長九年大嘗 今總紀方言 あまなり朝日乃きりきりきり

世のきりきりいけり 淡人  
朝日

伊香

山 海浦 山  
海浦

いとよのこきけいけい 船  
恒

山



万八 蘇北 いろこ山 船よりしきりしを 蘇北れと

君うやとたなる 蘇北れと 蘇北

月十三 修りまきしをりやとわさおて 伊香胡山

いそりくをんゆくゑろくきて 上果

右 短歌或書云 穂積朝臣老配於

依渡り時作舞云云

海

あひをりし後いりこ乃海より

少や人をあふろるる

右 前大信正 慈法よりあひて

はりりまりとあん

浦

いそやれしそや人のいそらん

伊りこ乃浦をうりあ

右 近江の伊香とよあまりり

人よつりたり

百間山 正字不詳

懐中 谷水 いろこがらりきて 山乃谷水れ

高見山 杉 小うらぬをとよなるあけ

万代 高見山 杉

あられあたるみ乃山よ 文来ひく

電宮本 たりりりもけし物とさう思へ

松

物おしをあらはれりしきなりいり

高見山 たりみのうまにま本川人

大納言 隆房

見田上山

或抄云高見山同山也云今ある云庄号

見田上寺号本高見字者息言抄

令四 雪

衣色ふよりこのうら風さえくして

源光徳

抄

明玉 花

さうらや谷はこめさうらうりて

仲実

弥高山

備中有同名

拾十 林 近江なりやたり山乃さう記めて

君うちよ紙ハいのりかきむ 平魚蔵

寛元四年大 嘗令奇

かをわけて照を月日れあさうけき

前中納言 経光

連庫山

万七

はくあやわなみくらう山よやめてハ

あそあそふふれ日くせこ

白月山

月十二 新勅十四 虫

ゆきこみあうつき山のまねうら

のらえうあうすあまんを思

或本号曰たえんとや紙わうあうら

三

○ 皇朝の御歴代は神代より神代天皇

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

御代より神代天皇御代は神代天皇御代

